

令和8年度 関東東海北陸農業試験研究推進会議 土壌肥料推進部会 秋季研究会開催要領

関東東海北陸農業試験研究推進会議 土壌肥料推進部会長
農研機構中日本農業研究センター野菜畑作研究領域長 唐澤敏彦

1. 趣 旨

わが国は、2008年および2021～2022年に、国際情勢の変化に起因する肥料価格の高騰を経験した。近年の肥料価格高騰は、世界的な肥料需要の拡大やエネルギー価格の上昇に加え、中国の輸出規制やロシア・ウクライナ情勢などの地政学的要因が複合的に影響したものであり、肥料原料の多くを輸入に依存するわが国農業の脆弱性を改めて浮き彫りにした。現在も中東情勢をはじめとする国際情勢は不透明な状況が続いており、肥料を含む農業生産資材への影響が懸念される。今後も同様のリスクの発生が想定されることから、本研究会では、肥料をめぐる最近の情勢を共有するとともに、安定的な農業生産に向けた土壌肥料分野の課題や今後の方向性について検討する。

2. 開催日時

令和8年10月15日（木） 13:30 ～ 17:00（秋季研究会）
10月16日（金） 8:30 ～ 12:00（現地検討会）

3. 開催場所

（1）秋季研究会（1日目）

埼玉グランドホテル深谷（深谷市西島町1-1-13）*オンライン開催はなし

（2）現地検討会（2日目）：8:30 JR深谷駅バス乗り場出発、貸切バスで移動

朝日アグリア（株）関東工場（児玉郡神川町渡瀬222）

4. 共 催

関東東海土壌肥料技術連絡協議会

5. 研究会プログラム

テーマ：国際情勢の変化と肥料価格高騰リスクに対応する土壌肥料分野の課題と戦略

（1）近年の国際情勢等を踏まえた肥料をめぐる情勢

山下 裕樹 氏（農林水産省 農産局 技術普及課 肥料調整官）

（2）国内未利用資源の活用による肥料の開発と普及

浅野 智孝 氏（朝日アグリア（株））

（3）国内資源（家畜ふん、下水汚泥）を活用した肥料開発

西野 康次郎 氏（片倉コープアグリ（株））

(4) 事例紹介

- 1) 砂画分の雲母鉱物は新たなカリウム資源となるのか
安藤 薫 氏 (愛知県農業総合試験場)
- 2) 埼玉発！下水汚泥を活かした肥料で地域の資源をムダにしない農業へ
遠藤 司 氏 (埼玉県農業技術研究センター)
- 3) 家畜ふん堆肥を原料とした指定混合肥料の施用試験
高橋 萌会 氏 (神奈川県農業技術センター)

(5) 総合討議

6. 参集範囲

関東東海北陸地域各都県行政・普及・試験研究機関、農林水産省消費・安全局、農産局、農林水産技術会議事務局、関東農政局、北陸農政局、東海農政局、大学、民間企業、(独)農林水産消費安全技術センター、農研機構、その他部会長が認めるもの

7. 連絡先

研究会事務局：農研機構中日本農業研究センター 野菜畑作研究領域 菊地 直
(TEL：029-838-8827、E-mail：carc-soil_autumn-meeting@ml.affrc.go.jp)

現地検討会事務局：埼玉県農業技術研究センター 環境安全担当 担当部長 丸岡 久仁雄
(Tel：048-536-0347、Fax：048-536-0418、e-mail：k3603119@pref.saitama.lg.jp)

8. その他

参加申込み等については、事務局より別途連絡する。